

速報第2608号 H28. 3. 23発行 総務課 扱	道議会における質疑・質問及び答弁要旨	28年・1定 一般質問 3月10日	質 問 者	広田まゆみ 議員 民主党・道民連合 (札幌市白石区)
質 疑 ・ 質 問		答 弁		担 当 課
<p>(五) 体験活動の推進について</p> <p>私は、北海道の強みを活かす人材育成を国内外に発信していくためには、具体的には、体験活動の強化が重要だと考えています。</p> <p>企業家精神、つまり、与えられた問題にどう答えるのではなく、地域の問題解決のために、自ら、問を立てられる人材を育成するには、教科教育のみだけでなく、体験活動や総合的な学習の時間が有効です。インプットされた情報をただ受け止めるだけではなく、知識として活用し、仕事づくりや外の世界の変化とつなげていく習慣付けが学齢前から必要です。</p> <p>ところが、現実的には、現行の学習指導要領では、平成20年度以降から、教科重視の傾向が高まり、総合的な学習の時間が減少しています。体験活動についても現在の学習指導要領における位置付けは薄いと云わざるを得ません。総合的な学習の時間のもつ意義と現在の総合的な学習の時間の活用状況、今後の取り組みについてどのように考えるか伺います。あわせて、体験活動の現状と推進に向けた考え方について教育長に伺います。</p>		<p>(教育長)</p> <p>総合的な学習の時間における体験活動などについてでございますが、総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成することなどをねらいに、探究的な学習として、例えば、道内の小学校では「地域の人々の暮らし」や「環境教育」等に関わる課題などの解決、また、中学校では「キャリア教育」や「地域の歴史・産業等」に関わる課題などの解決に向け、体験活動を取り入れて学習が行われているところでございます。</p> <p>平成20年の学習指導要領の改訂において、授業時数の見直しが行われたところでございますが、総合的な学習の時間以外においても、各教科等の指導内容に応じ、自然体験やボランティア活動、ものづくり、生産活動などの体験活動が行われているところでございます。</p> <p>道教委といたしましては、今後とも、各学校において取り組まれている体験活動が学習のねらいを踏まえて効果的に実施されるよう、優れた事例を取りまとめ、指導のポイントとともに道教委のウェブページに掲載するほか、各種の研修会等を通じて指導助言を行ってまいりたいと考えております。</p>		義務教育課